

「第56回富山県トラックドライバー・コンテスト」女性部門 優勝

伏木貨物自動車株式会社 本社 中村 瑠美 さん



～ トラックは小さい頃から好きでした ～



トラックドライバー・コンテスト事務局は、本年6月21日に開催しました「第56回富山県トラックドライバー・コンテスト女性部門」で優勝されました伏木貨物自動車株式会社本社勤務の中村瑠美さんに同社においてインタビューをさせて頂きました。

本日は宜しくお願い致します。まず、勤務年数や配送場所等についてお聞きます。

はい。ここでの勤務は今年で9年目になります。それ以前は他の運送会社でドライバーをしておりまして、大型車での運転歴は20年程になります。

とにかく早く自動車に乗りたくて17歳から自動車学校に通い、当時から少なくなり始めたマニュアル免許を取得しました。

若い頃は手積み手卸し、長距離運転を経験して、今は北陸を中心とした地場輸送を行っています。



点検競技中の中村さん

コンテストも終了して月日も経ちましたが、改めて女性部門の優勝おめでとうございます。

優勝を振り返り、お気持ちをお聞かせください。

女性部門の参加人数が少なかったし、嬉しいよりも、ただ、恥ずかしいという思いです。人前に出るのが得意ではないので、とても戸惑ったのと運転競技の点数が良くなかったのが悔いが残りました。

昨年、女性部門は5名出場されましたが、今年は少なくなりました。出場に向けて色々幅広く呼び掛けたつもりですが・・・

毎年ですが、女性選手の参加人数を増やすのも来年の課題です。コンテスト開催は、知っておられたと思いますが、出場されたきっかけは何でしたか？

コンテストがあるのは知っていました。ここに入社して2年目だったと思いますが、上司からコンテストに出てみないかと誘われましたがその時はお断りし、今回2回目ですし、誘われたので出てみようかと思って出場しました。

門嶋次長 談

中村さんは自分がコンテストに出場する事になるとは思っていなかったと思います。

社内で検討し、女性部門があるなら中村さんをお願いしようと思いました。

そうですね。キャリア的には十分出場ありだと思います。

しかし、業務も多忙な中、こういった練習をされましたか？ 苦労された点や学科問題はだいぶ勉強されましたか？

点検は、過去にコンテストに出場された先輩に指導して頂き、繰り返し繰り返し、不慣れな言葉を口に出しての反復練習をして頭に叩き込みました。

最初は点検競技時間内に終了出来ず、タイムオーバーを繰り返していましたが、練習を重ねるにつれて時間内に終了するようになり、達成感を味わうことが出来て嬉しかったです。

学科は、家庭内ではあまり時間が取れないので、仕事の待機時間を利用して、ひたすら過去問を解く勉強をしました。運行管理者の資格を取る時も結構勉強しましたので当時を思い出しながら勉強しました。

皆さん、仕事も忙しいでしょうし、御家庭に帰られてもなかなか勉強時間を確保することも難しいですね。でも学科の勉強をされた結果は、ちゃんと成果として出ており、トップクラスの素晴らしい成績でした。

さて事前講習についてです。コンテストに向けての事前講習ですが、改めて安全能力を復習する意味もあります。特にどの部分が勉強になりましたか？ また、事前講習前に自身でマニュアル等を学習されて臨みましたか？

運転実技は、3回コースを走りましたが、普段乗車しているダンプ車よりもホイールベースが2m程長く、平ボディ車だったので、オーバーハングや巻き込みの確認、ハンドルを切るタイミングなどいつもと感覚が違い、慣れるのに苦労しましたね。

でも、その都度、指導員の方が適切なアドバイスをしてくださり、初心者に戻ったような気持ちで反省したり、再確認する良い機会となりました。

ただ、練習時間は部門別に一人の持ち時間に差があり、11トン部門は他部門より短かったですね。

毎年、トレーラ部門、女性部門は人数が少なく、11トン部門と4トン部門は選手が多いので練習時間や回数が少なくなる傾向はあります。選手全員の練習時間の統一化は課題としたいと思います。

さて、元々、安全運転や交通事故防止には配意されていたと思いますが、優勝された後、車両の点検や交通事故防止に対する考え方や取り組み姿勢に変化はありましたか？

車両点検では、以前よりも念入りに運行前のタイヤ周り等を点検するようになりました。

運転中では、道路標識や規制標示などが目に飛び込んでくるようになり、以前よりも増して安全運転を意識してハンドルを握るようになりましたね。

絶対に事故は起こさないという気持ちに変わりはありませんが、コンテストに出て、より一層気を引き締めるようになったと思います。

やはりコンテストに出て、より安全能力が高くなった訳ですね。御社の選手は過去にも優勝されておられますし、コンテスト出場には積極的に対応して頂いており、感謝しています。

コンテスト出場に向けて上司や同僚の皆様から指導を受けたりされましたか？

また会社の皆様に関して今のお気持ちをお話し下さい。



運転競技

過去にコンテストに出場した方々からは何に力を入れたら良いか、注意点はどこか、学科ではどのような勉強方法を行ったか等を教えて頂きました。

点検競技の練習では、時間がない中で助手をお願いしてアドバイスを頂くなど練習に付き合ってもらい、とても感謝していますし、社内のドライバーの皆さんには「おめでとう」と声を掛けて頂き、とても嬉しかったです。

コンテストの様子や入賞結果について北日本新聞や富山新聞で報道されました。

御家族の皆様や友人、知人の皆様からは反応ありましたか？

また、家庭と仕事の両立、子育ても大変だと思いますが、仕事に対して御家族様の御理解や御協力も必要だと思います。改めて御家族様に対する思いがございましたらお話し頂ければと思います。

優勝については、取引先の方から褒められましたね。前の運送会社の方からも電話がありました。

家族には優勝について自分から話しましたが、あまり凄い事だと思ってないようでしたね。(笑)

夫もドライバーをしており、自分が朝早く出勤するので「行ってらっしゃい」とほとんど言ったことが無いのは本当に申し訳なく思っています。

子供は4人いますが、今は自分の事は自分達でするようになりました。

子供達は、文句一つ言わず、自分が働くことを許してくれており、家族の支えが無くてはここまで来れなかったと思いますし、今は感謝しかありません。

そうですか。表彰式では「小さな頃からトラックが好きでした」と話しておられました。

それを聞いて「小さい頃からの夢を実現されてそしてコンテストで優勝」素晴らしいコメントに感動し、その場に司会者として立ち会えたと思うと純粋に目頭が熱くなったのを記憶しています。

ドライバーになろうと思われたきっかけを教えてくださいませんか？ どんなところに魅力を感じましたか？

関連して、御社を勤務先を選ばれた理由、又はアピールポイントがあればお話しください。

若い頃、既に大型トラックのドライバーをしていた夫と知り合い、たまたま助手席に乗せて貰ったことがありました。全てはその時が始まりです。助手席から見た東京の景色に感動し魅了されたことから、「私は絶対に大型トラックのドライバーになる!」と決めました。

視界が高く、景色も違って見えるトラックの視界は今でも大好きです。

この会社を選んだのは、港関係の仕事に惹かれました。大きな貨物船や工場、その景色が元々大好きなんです。

何ヶ所か、発電所での積み込み業務はありますが、そうした風景も好きで、この仕事の内容が自分には合っています。

そうですか。トラックで走ることの楽しさが非常に分かりやすく伝わってきます。

風景を楽しむ、その中には季節の移り変わりを楽しむこともあるのでしょうか。

仕事も大事ですが、時にはリフレッシュ、気分転換も必要かと思います。

子育ても大変だとは思いますが、自由な時間も取れないとは思いますが、趣味や熱中していることはありますか？

話された通り、業務以外では自分の時間はほとんど持てないのが現実ですし、子供達の習い事や部活の送迎、家事も無限にあります。

でも大変だとは思わず、家事も好きなので楽しんでやっています。

料理を作るのが好きで得意なので、時間がある時は、ひたすら料理に没頭してストレス解消にも繋がっています。

それと先ほども話しましたが、運転することが好きなので仕事でも一人の時間として大事にしています。

業務の話に戻りたいと思います。

業務の中で大切にしていることはありますか？

今までの業務の中で影響を受けた方はいますか？

そうですね、仕事の中で大切にしていることは、人との関わり方です。

影響を受けた人は、若い頃に出会った多くの先輩方で積み方や運転の仕方、効率的な運行など色んな事を教わりました。

色んな失敗をたくさんして、それでも手を差し出して貰い、色んな事を自分に教えてくれた先輩の優しさは、ずっと忘れる事はありません。



素晴らしい先輩ですね。優勝を喜んでおられると思います。

全員で記念撮影

さて、安全能力は常に発揮されなければ意味がありません。

コンテストで優勝された経験を活かされてどんなドライバーを目指したいですか？

私は男性、女性という意識は無く仕事をしています。

優勝にはこだわらず、今まで通りの運行を無事故、無違反で1日1日を確実に安全に終える安定したドライバーを目指したいと思います。

ただ、毎日、小さな失敗もたくさんあり、反省もよくします。

まだまだ運転技術も未熟で力不足だと思いますし、自分自身、これからも成長していけたらと思います。

でも、運転している自分を見て一人でも多く「トラックに乗りたい」と思う女性ドライバーが増えるといいですね。

はい。業界の大きな課題としてドライバー不足があります。

トラック協会としてはドライバー・コンテストを始めとして女性ドライバーが活躍する姿を幅広く紹介するため、こうしたインタビューも取り入れたりしていますが、もっとこういった取り組みによって女性ドライバーを紹介して欲しい、あるいは、こういった情報を発信して欲しいなどの意見がありまたらお聞かせ下さい。

そうですね。例えば「女性ドライバーの1日密着」などの動画を作ってみてはどうでしょうか？

業界のイメージも分かりやすく、イメージアップに繋がりますか？

私も実際に女性ドライバーの動画配信をYouTubeで見て共感したり、勇気や元気を貰えるので好きですね。

良いですね。動画配信ですか。宣伝効果が期待できますね。ありがとうございます。前向きに検討します。

一日密着、そしてドライバー・コンテスト出場へとドラマチックなストーリー展開となれば良いですね。

この機会をお借りして動画撮影に協力して頂ける女性ドライバーさんを募集します。

「私がモデルになります」「是非私の事業所で」として御協力を頂ける皆様、連絡をお待ちしております。

連絡先 富山県トラックドライバー・コンテスト事務局 佐野 電話番号 076-495-8820

今回、女性選手の出場者数が減りました。様々な方法で紹介しながら募集していますが、もっと効果的にコンテスト開催、出場をアピールできる方法がありましたらお聞かせください

業界そのもののイメージアップが必要でないでしょうか。どうしても男性優位、男性中心の業界なので女性は控えめになりがちです。

女性のためのイベントや交流の機会を増やして安心した中でコンテストをアピールされれば良いかもしれませんね。

ありがとうございます。女性ドライバーの方々がもっと生き生きと能力を発揮され御活躍できる業界として発展すべきだと思います。富山県トラック協会としてもサポートしたいと考えています。

さて最後の質問になります。

ドライバーコンテスト優勝者として日々頑張っている女性ドライバーの皆様応援メッセージをお願いします。

そして最後にお話ししたいことがあればお願いします。

置かれた環境は異なりますが、たくさんの事を抱えながらも家庭と仕事を両立されている女性は多くいると思います。本当にお疲れ様です。でも女性は強いですし、何より女性しかできない気配りや仕事もあると思います。

まだまだ男性色の強い業界ですが、少しずつでも一緒に変えて行けたらと思います。

大型車による大きな交通事故などは世間のトラックに関するイメージを悪くします。

交通事故が無くなることで、もっと業界のイメージが良くなればと願っています。

ありがとうございました。長時間になりましたが、大変貴重なお話を聞かせて頂きました。

全国コンテストも近づいてきておりますが、緊張なされずに実力を発揮してきてください。

本日は本当にありがとうございました。これからも益々ご活躍されますことを祈念しております。

門嶋次長 談

中村さんは家庭や子育てと仕事を両立されており、大変だと思っています。

でも仕事は言われてやるのではなく、自ら考えて動くタイプで男性ドライバーを含めても模範となるドライバーです。

取引先の評判も良く、正直、中村さんのようなドライバーが増えて欲しいと思っていますし、中村さんの仕事をドライバーにも見習って欲しいと思っています。



伏木貨物自動車株式会社

編集後記

今回のインタビューには御多忙の中、門嶋次長様も御同席なされ、大変感謝しております。

子育てや家事については、さらりと話されていましたが、実際、家庭内では大変御苦労なさっておられると思いますし、仕事との両立にも中途半端とせず、能動的に勤務なされるとお聞きし、イメージはさながらスーパーウーマン、前向きで魅力にあふれたドライバー様でした。

一方で御主人に「行ってらっしゃい」と送り出してあげられない辛さを話される愛しさには胸を打たれました。

我が家は妻よりも先に私が家を出ますが妻は無言です・・・送り出してくれない辛さです・・・

ドライバー・コンテスト、今年も素晴らしい女性ドライバーに話をお聞きしました。

色んなアイデアや助言も頂きました。さて何から手をつけましょうか・・・

(事務局)